

第5回福祉医療常任委員会 要点記録												
開閉会日時		平成30年7月12日(木曜日)			開会 9:57		閉会 11:50		会議場所		別海町議会 委員会室2	
委員の出欠		3 番 大内 省吾 出席			4 番 木嶋 悦寛 出席		7 番 今西 和雄 出席					
		12 番 戸田 憲悦 出席			13 番 中村 忠士 出席							
出席説明員		福祉部長 河嶋田鶴枝			福祉部次長 青柳 茂		福祉課長 干場みゆき					
		介護支援課長 竹中 利哉			町民課長 青柳 茂		地域包括支援センター長 九里 富恵					
		介護支援課主幹 高橋 勇樹			町民課主幹 小野 勝彦							
委員外の出席		議長 松原 政勝										
事務局職員		事務局長 浦山 吉人			主幹 松本 博史							
傍聴者数		一般 0名			報道関係者 0名		合計		0名			
会議に付した事件及び会議結果など												
発言者				会議経過								
委員長 12 番 戸田				9:57 開会								
				開催概要説明								
				出席委員5名、欠席委員0名								
委員長 12 番 戸田				開会あいさつ								
				【福祉部に係る調査】								
委員長 12 番 戸田				議事1 所管事務調査について								
福祉部長 河嶋				概要説明								
				(1)地域包括ケアシステムについて								
介護支援課長 竹中				概要説明								
地域包括支援センター長 九里				内容説明								
				資料に基づき以下の項目について内容説明								
				・地域包括ケアシステムの概要 ・地域包括ケアシステムの概念 ・地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み								
委員長 12 番 戸田				質疑								
委員 4 番 木嶋				①はたして自分らしい生活というのを個々の住民からどのように聴き取っていくのか。								
				②広大な別海町の社会資源の格差をどのようにカバーしていくのか。								
				③生活支援コーディネーターは、どのような資格が必要であるか。また、地域包括支援センターの強化が必要と考えるが、どのような構想を持っているか。								
介護支援課主幹 高橋				①介護認定を受けている人及び無作為に抽出した介護認定を受けていない一部の人を対象にアンケートを行っている。このアンケートは、第6期介護保険事業計画でも行っており、第7期の計画については、第6期の課題の改善を踏まえて計画しており、住民の意見の反映に努めている。								
				②中央にサービスが多く存在しているが、今年度は東地区のサービスの計画を立てている。不足しているサービスもあるが、十分賄えているサービスもある。高齢者がこれから増えていく過程の中で、地域の課題に見落としが無いように、今年度設置している地域包括ケア会議において地域の意見を聴いていく考えである。								
				③地域包括支援センターは、当町は現状5名体制で取り組んでいるが、現状の体制で東地区、西地区までカバーしていくのは難しい。このため、他の団体との協力を検討している。生活支援コーディネーターの資格は、2日間での講座を受講すると取得できる。現在、当町は、福祉課と地域包括支援センターに各1名の有資格者を配置している。								

第5回福祉医療常任委員会 要点記録

委員	4 番	木嶋	③生活支援コーディネーターについて、民間での有資格者を把握されていたら人数を教えてください。
介護支援課主幹		高橋	③社会福祉協議会に3名。他の町村は、社会福祉協議会に有資格者を抱えているケースが多い。
委員	13 番	中村	①西春別駅前では、高齢を理由にご本人により家族が心配し、町外、道外への移住の末、空き家となるケースが増えている。地域包括ケアシステムは、非常に良い計画であるが、現状把握をどのようにされているか。原因の認識、解決策が必要ではないか。
			②資料中に示されている「認知症初期集中支援チーム」の詳細を知りたい。
介護支援課長		竹中	③同じく資料中に示されている「認知症地域支援推進員」の詳細を知りたい。
			①原因の把握はしていないが、地域包括支援センターにおいて相談の窓口は常に開いている。
			②3名の体制でチームを編成している。
委員	13 番	中村	③国及び町のとらえに基づき地域包括支援センターに1名以上配置することとなり、職員があたっている。
			①窓口を開いているから相談に来てください、というのも大事だけど、人口減少が起きている。庁舎をあげて人口減少対策に取り組んでいると思われるので、ぜひ根底にある問題を把握していくべきだ。私は、やはり医療の不安が根底にあるのではないかと考えているが、議員も職員も責任をもって取り組んでいくべきだと感じている。
			②どのような資格を必要とするのか。
福祉部長		河嶋	③研修をこれから行うのか、もう終わっているのか。
			①本年度から実施する4つの事業を実施していく中で、また、民生委員や郵便局等との見守りの連携など、少しずつ取り組んでいく中で問題を解決していきたい。まずは、やはり相談を受けていただけるよう周知の努力をしたい。
介護支援課長		竹中	②支援チームは、保健師・社会福祉士・介護福祉士・看護師・准看護師・作業療法士・理学療法士・精神保健福祉士等の資格を有しており、実務経験3年以上の専門職から2名以上、ドクター1名以上により構成され、3名以上でのチーム編成となる。
			③研修は必要なく、医療・保健福祉に関する国家資格を有する者、または知識・経験を有しており町長が認めた者が務める。
副委員長	7 番	今西	親の生きざまを見てきた世代にとっては、すぐ現代のシステムは充実していると感じる。逆に親を別海に呼び、老後を別海で送るというスタイルも考えられる。自助、互助の部分の充実をしていくべきと考えるが、自治会の役員に説明し、見守り等の協力をしてもらうような施策にも行政として力を入れていくべきと考える。
福祉部長		河嶋	おっしゃるとおり、自助・互助の取り組みは重要と考える。助け合いチームなどの取り組み、社会福祉協議会及び各事業所との連携も含めて力を入れていきたい。行政だけではできないことがあるので、自助・互助の努力をしていただきながら計画を進めていきたい。
副委員長	7 番	今西	自助・互助は、決まり事が多く、気持ちを動かす必要があるからとても大変だが、その自助・互助の精神をもっと地域に伝えていく必要があると思う。
委員長	12 番	戸田	制度改正に翻弄されてしまうという懸念がある。だからこそ、町民の皆さんに福祉施策の理解をしてもらう努力をする過程で自助・互助につながっていくのではないかと。
委員	4 番	木嶋	成年後見制度の現状と課題は。

第5回福祉医療常任委員会 要点記録

介護支援課長	竹中	町内に後見を受けている方が2名いる。 成年後見制度の研修を多くの方に受けていただき、社会福祉協議会の取り組みに参加していただいている。研修は、1年おきに委託事業により社会福祉協議会が実施している。また、フォローアップ研修を1年に1回行っている。研修の参加者が減少しているので、今後の課題は研修を多くの人に受けてもらい制度の理解を深めていくことにあると認識している。 その他意見があればお受けする。 このシステムの推移を見守っていきたい。 システムの周知に取り組んでいただきたい。 11月に開催する議会報告会のテーマとしているので、今後も議論を深めていきたい。 我々も議会報告会で住民に説明していくため、今年度の大きな調査テーマとしている。住民に説明する上でのバックアップをお願いしたい。
福祉部長	河嶋	
委員長	12 番 戸田	
委員	3 番 大内	
委員長	12 番 戸田	
副委員長	7 番 今西	
委員長	12 番 戸田	
委員長	12 番 戸田	休憩 10:59
		再開 11:09
		(2)ごみ処理場について
福祉部次長	青柳	内容説明
		資料に基づき以下の項目について内容説明
		・課題
		・検討対象施設等
		・総合計画策定の考え方
委員長	12 番 戸田	質疑
委員	4 番 木嶋	①緊急的な案件は、対応するという説明であったが、ぜひお願いしたい。
		②ごみ処理場を町民に見てもらうという工夫が見られるが、もう少し突っ込んで町民に見せていく取り組みが必要と考える。そのあたりの考え方は。
福祉部次長	青柳	②環境教育は重要と考えている。昨年度、分別啓発看板をごみ処理場内に設置し、担当職員がごみ処理場内を看板の設置個所を順次周りながらごみの処理、リサイクルについて説明している。また、収集業者を対象にアンケート調査を行っており、分別の課題があれば啓発に反映させていく。
		②どのような内容のアンケートか。
委員	4 番 木嶋	②分別収集上の支障やその改善意見をいただいている。
福祉部次長	青柳	②小学生を対象としたごみ処理場の説明も大事であるが、やはり大人に対する啓発が大事で、分別辞典の発行など取り組みが進んでいるが、もう少し進めていく必要がある。
福祉部次長	青柳	②出前講座の申し込みを多数いただいているが、ごみ処理場の現場を見ていただくことに力を入れる方向でも検討していきたい。
委員長	12 番 戸田	①本町のごみの分別は、高度で進んでいると考える。
		②ごみ処理場で働く人の働きやすさを意識して、就労環境の整備を第一に考えてもらいたい。休憩所、トイレの早急な対応をお願いしたい。
		③野付沖の網の残渣はどのように処理されるのか。
福祉部次長	青柳	②トイレについては、柏の実会に確認したところであり、簡易トイレの増設を要望されている。休憩室については、作業環境の改善の方を優先していただければとの要望もあったため、今後の全体計画の中で考えていきたい。
		③水産みどり課が補助事業を活用して対応している。
委員	13 番 中村	①収集業者がごみを持っていかないときの啓発シールは、町が作っているのか、業者が作っているのか。もっと見やすい方が良いのではないのか。

第5回福祉医療常任委員会 要点記録

	②びんは、もう少し小さい袋をつくる考えはないか。どうしてもたくさん入れてしまいたくなる。 ①啓発シールは町で作っている。さきほど説明した収集業者に対するアンケート結果を踏まえながら検討したい。 ②みなさんのいろいろな意見を聴きながら、びん以外の袋の意見もあるので、全体的に検討していきたい。 ②袋の更新時期のサイクルはどのようになっているのか。 ②予算要求時期に在庫を踏まえて、購入予定枚数を決めている。 ごみ処理場の説明の工程の中で、ルールを守ることスムーズにごみ処理が可能となることを説明していくべきだと考える。ごみの分別がまだ徹底されていないという課題があるので、ごみ処理場の見学者に対する説明の中でそのことを補足して説明していただきたい。
町民課主幹 小野	
委員 13 番 中村	
町民課主幹 小野	
副委員長 7 番 今西	
委員長 12 番 戸田	議事2 その他
福祉部長 河嶋	生活保護関連の質問を事前にいただいており回答する。現在、生活保護関連事務は、道の所管となっており、一部町と関わりがあるが、保護費の支給は道で行っている。相談業務などは社会福祉事務所のケースワーカーが行っている。
	質疑
委員 13 番 中村	①現在の保護を受けている方の世帯数、人数は。 ②生活保護の制度改正により、本町の対象世帯数等は変わるのか。 ③捕捉率はどのようになっているか。
	①30年4月現在で115世帯、142名の受給である。 ②30年10月からの制度改正により基準が変わるが、世帯の人数、年齢区分などによって基準が変わる。基準が上がる方、下がる方さまざまである。65歳単身の方で月に190円減額、70歳単身の方で月390円増額。本町においては、制度改正により保護を受けられなくなる方はいないとおさえている。 ③捕捉率は現在把握していない。
福祉課長 干場	相対的に大きな変化はないと考えてよいか。生活水準については変化はないか。子のいる世帯、1人親世帯で教育扶助や母子加算が見直されている。今後、現状の把握に努めていきたい。
	休憩 11:49
委員長 12 番 戸田	再開 11:50
自由討議	次回所管事務調査について自由討議
	討議結果
	・次のとおり閉会中の所管事務調査を行うこととなった。 ①別海病院の医師等確保の状況及び診療体制について ②高齢者保健福祉施策及び計画について 地域包括ケアシステムの各種施策についての確認を含む。 ・日程については、8月9日(木)とすることで所管と調整する。
委員長 12 番 戸田	11:50 開会